インド・スリランカの旅を終えて

インド・スリランカ一ヶ月の旅を終えて無事日本に戻ってきました。
インド・スリランカでは知り合いのお坊さんの案内でいくつかの仏事に準備段階から参加させていただき、お坊さん、現地の人たち、日本人旅行者の人たちと楽しい交流をすることができました。
インドは仏教発祥の地であるものの、現在インドに仏教徒はほとんどいません。
けれどもインドの代表的宗教ヒンズー教とともに、インド人と宗教は切っても切れないもののようで、生活の中に宗教が自然ととけ込んでいます。

私の行った南インドは常夏の恵まれた自然環境で、バナナ・ココナッツ・マンゴ・パパイヤなど数多くの美味しい果物がいたるところで実りをつけ、その穏やかな気候と同様、暮らす人たちも温厚なように感じました。
インドといえば貧困、物乞い・・・といったイメージがあります。北インドでは飢えで苦しむ人が少なくない状態ですが、南インドでは餓死する人はいないそうです。
気候も人間も南インドの方がずっといい・・・こうっいた話を多くのインド人や日本人旅行者から聞きました。
食事は日本食のようにいろいろなメニューがあるわけではないのですが、その土地で自然に採れた食材と多彩な香辛料で味付けされたインド料理はとても美味しくエネルギッシュなものです。
美味しい食事のお陰で、体も日本にいる時よりも元気いっぱいパワフルでした。

今回の旅で最も楽しみだったのがインドの子供たちと触れ合うことです。
インドでは各地の５つの孤児院（ホーム）と小学校を訪問させてもらいました。
インドの子供たちは豊かな自然の中、とても伸びやかにスクスクと育ち、日本の昔の子供たちが持っていた、いい意味での子供らしさを持っています。

インド最南端の聖地カニャークマリにあるホームには九日間滞在しました。
朝５時過ぎ、まだ夜も明けきらぬうちから外では子供たちの小鳥がさえずるような楽しい話し声が聞えてきて、ほうきで宿舎（コテージ）や外を掃いたり、服を洗濯したり水浴びをしたり、楽しい一日のスタートです。
キリスト教精神に基づいて運営されているそのホームでは、毎日朝夕の決まった時間に礼拝があります。
子供たちが宿舎ごとにきちんと並んで礼拝堂に入り、きれいに列をなして並ぶその姿はじつに凛々しく美しいものです。
全員があぐら座りをするのですが、背筋はきちんと伸び、長時間の礼拝でもその姿勢が乱れることはありません。
『教育の基本は立腰（りつよう）にあり』とは偉大な教育者森信三先生のお言葉ですが、その実践がインドでごく普通になされていることに感動を覚えました。

礼拝堂では男女別、年齢別に座ります

ホームにはココナッツ他果物がたくさん

ホームを訪れた二日目の夜、礼拝の時間に歓迎会を催してくれました。
首に大きなジャスミンの花で作った首飾りをかけてもらい、前の舞台では、小さな子供から大きな子供まで､計八組のグループが音楽に合わせてインドの踊りを披露してくれます。
それらの踊りはどれも心がこもって素晴らしく、またそれを見ている子供たちのごく自然な可愛らしい姿・・・、本当に深く深く心打たれました。
この歓迎会を受けた多くの人が涙を流し、中には声を出して泣きじゃくる人もいるとのことでしたが、その気持ちがよく分ります。

子供たちは日中はホームのすぐ近くにある学校に通っていて、ホームにいる間は、礼拝の他、食事、勉強、掃除、遊び等大まかに決められたスケジュールに従って生活しています。

子供たちは写真が大好き

中学校まで案内してくれました

朝早く、子供たちが活動をはじめるとともに外に出ると、私を見つけた子供が駆け足で近づき、手をつなぎどこまでも一緒に付いてきてくれます。
どの子も私を見かけると笑顔で手を合わせ「ワナッカム」と現地の言葉で挨拶をし、
「ブラザー、カム、カム」と自分の宿舎に私を案内しようとしてくれます。
私はどこへ行ってもモテモテの引っ張りだこ、まさに至福の一時です。

男の子たちは最初から全身で私を受け入れてくれて、腕にぶら下がったり、体にまとわりついて引っ張ったり、大声でいろんなことを話しかけ、コマやクリケットで遊ぶ姿を見せてくれました。
男女間の戒律の厳しいインドですので、女の子は最初少し恥ずかしそうでした。
けれども私から積極的に近づき手を握り声をかけるようにしていると、少しずつ心を開いてくれるようになり、小学校に一緒に行った時など、私の両方の手それぞれに二本も三本も可愛らしい腕が伸びてきました。
小さな女の子は頬にキスをしてくれ、中学生の女の子まで手をつないでくれるようになったことには、驚き、喜びと同時に、私の方が少し気恥ずかしい気持ちになりました。

ホームの子供たちはコテージの木製のベットが並んだ大きな部屋で寝起きをし、学校の勉強道具以外、個人の持ち物は私服の入った中型のトランクケースひとつだけです。
そんな彼ら、彼女らの心はなぜこんなにも豊かで伸びやかなのでしょうか。
豊かすぎるものに囲まれた日本の子供が不登校、引きこもり、いじめ等で悩んでいるというのがまさに別世界の出来事のようです。

おねえさんにリボンをつけてもらいます

犬、鳥、ウサギ、可愛い動物がたくさん

私が子供たちにできるのは、ただそばにいて手を握り、一生懸命話しかけてくる子供たちの言葉を聞き、それに頷くことだけです。
けれどもそんな私を子供たちはしっかりと受け入れてくれました。
『私のような人間でも、ただそこにいるだけでこの素晴らしい子供たちに光り輝くような喜びを与えることができるんだ・・・』　そのことに気づかせてもらえたことは、私にとって癒しを超えた“救い”の体験でした。

生きるとはどういうことなのか、幸せとは・・・、経済大国日本に住む私たちが忘れてしまった大切なことを、インドの子供たちは体で教えてくれました。

2008/03/16
酒井伸雄

★☆★☆　義援金とツアーのご案内　★☆★☆

私の訪れたインド最南端のタミルナード州は、２００４年１２月、クリスマス直後に襲ってきたスマトラ島沖地震による大津波で大きな被害を受け、今もその傷跡は多くの所に残されています。

再建するキリスト教の教会

道路脇に積まれたがれきの山

津波によって両親を亡くしたり、貧困、子だくさん、ＤＶ（親による虐待）等でまともな教育を受けることができず、今もホームを必要とする子どもが数多くいます。

子どもを一人ホームで受け入れ、生活するために、食費、スタッフの人件費等義援金でまかなう費用だけで年間約４０,３２０円（Rs １２,６００）必要です。
　　（その他の経費はホームが負担します）
インドの子ども十人にホームに入ってもらうための義援金を私の方で集めたいと考えています。
もしよろしければ皆様方の善意とご協力をお願いいたします。

私の経験したこの素晴らしい体験を、一人でも多くの方に味わっていただきたく、乾期の始まる今年の１１月に南インドを訪ねるツアーを企画いたします。
いくつかの孤児院、小学校、聾学校などを訪問し、子どもたちとの交流の場を持ちたいと考えています。
受け入れる施設の関係で、定員８名となりますが、ご都合の付く方は、是非ご自身の体と心で南インドの素晴らしさを体感してください。

より詳しい南インドのご報告を、これからホームページに載せていきます。
是非そちらもお読みください。
　　http://yogananda.cc